

高等学校 第2学年 E 球技 ア ゴール型「ハンドボール」

単元の目標	1	2	3	4	5	6	7	8	
知識及び技能	勝敗を競ったたりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技で仲間と連携しゲームを展開することができようとする。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。
思考力、判断力、表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。
学びに向かう力、人間性等	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとする。

※共：単元全時間を男女共習で実施

ねらい	1	2	3	4	5	6	7	8	
ねらい	基本的なボール操作やチームのルールについて理解し、自己やチームの課題を見付けることができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。	コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶ等の状況に応じたボール操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。
導入	競技の特性や行い方、基本的なボール操作について理解し、課題を見ながら説明し、練習する。	チーム内で2人又は3人組を作り、コミュニケーションをとりながらキャッチボールを行う。 共：自分の技能に合った距離や自分の課題に応じたパスの方法でキャッチボールを行わせる。通常の硬さと少し空気を抜いて柔らかくしたボールから自分で選択してキャッチボールを行わせる。その際、お互いに良いプレイを認め合ったり、修正点を指摘し合ったたりする声掛けを積極的に行う。	状況に応じたボール操作に関する動きのポイントについて説明を聞き、練習を行う。 練習メニュー ①2メンバス ・2人1組でパスを投げ合いながら相手コートに侵入し、シュートする。 【動きのポイント】 ・パスをする側は、走り込んでくる相手のスピードに合わせて、スペースにボールを投げる。 ・パスを受ける側は、パスを欲しいタイミングで声をかけるとともに、手を出してパスを欲しい場所を相手に伝える。 ②バスゲーム (4対4) ・ハンドボールコート(1分)に一方のチームが相手チームに邪魔されず連続して10回パスをつなぐゲーム。 【動きのポイント】 ・ボールだけではなく、見方や敵の動きをよく見ながらドリブルするかパスするかを判断できるようにする。	ゲームを行う。 ・時間は1試合8分	ゲームを行う。 ・時間は8分の前後半とする。 ・前半終了後、チームで集まって前半の課題を出し合い、後半のようになりながらゲームを行う。 共：(1) 互いを認め合い、自己やチームの動きを高め合う活動の工夫 ・話し合いの中で、お互いに良かった点や修正点を指摘し合わせて、チームや自己の新たな課題を見つけていくことができるようにさせる。	ゲームを行う。 ・時間は1試合8分	ゲームを行う。 ・時間は1試合8分	ゲームを行う。 ・時間は1試合8分	ゲームを行う。 ・時間は1試合8分
展開	自分のボール操作に関する課題やチームの課題を見付けるために、試しのゲームを行う。	自分のボール操作に関する課題やチームの課題を見付けるために、試しのゲームを行う。	自分のボール操作に関する課題やチームの課題を見付けるために、試しのゲームを行う。	自分のボール操作に関する課題やチームの課題を見付けるために、試しのゲームを行う。	自分のボール操作に関する課題やチームの課題を見付けるために、試しのゲームを行う。	自分のボール操作に関する課題やチームの課題を見付けるために、試しのゲームを行う。	自分のボール操作に関する課題やチームの課題を見付けるために、試しのゲームを行う。	自分のボール操作に関する課題やチームの課題を見付けるために、試しのゲームを行う。	
終末	今後の学習の見直しをもつことができるように、ボール操作に関する自己やチームの課題を話し合う。	今後の学習の見直しをもち、自己やチームの課題を話し合い、次の学習の見直しを持つ。 共：(1) 互いを認め合い、自己やチームの動きを高め合う活動の工夫 ・話し合いの中で、お互いに良かった点や修正点を指摘し合わせて、チームや自己の新たな課題を見つけていくことができるようにさせる。	今後の学習の見直しをもち、自己やチームの課題を話し合い、次の学習の見直しを持つ。 共：(1) 互いを認め合い、自己やチームの動きを高め合う活動の工夫 ・話し合いの中で、お互いに良かった点や修正点を指摘し合わせて、チームや自己の新たな課題を見つけていくことができるようにさせる。	今後の学習の見直しをもち、自己やチームの課題を話し合い、次の学習の見直しを持つ。 共：(1) 互いを認め合い、自己やチームの動きを高め合う活動の工夫 ・話し合いの中で、お互いに良かった点や修正点を指摘し合わせて、チームや自己の新たな課題を見つけていくことができるようにさせる。	今後の学習の見直しをもち、自己やチームの課題を話し合い、次の学習の見直しを持つ。 共：(1) 互いを認め合い、自己やチームの動きを高め合う活動の工夫 ・話し合いの中で、お互いに良かった点や修正点を指摘し合わせて、チームや自己の新たな課題を見つけていくことができるようにさせる。	今後の学習の見直しをもち、自己やチームの課題を話し合い、次の学習の見直しを持つ。 共：(1) 互いを認め合い、自己やチームの動きを高め合う活動の工夫 ・話し合いの中で、お互いに良かった点や修正点を指摘し合わせて、チームや自己の新たな課題を見つけていくことができるようにさせる。	今後の学習の見直しをもち、自己やチームの課題を話し合い、次の学習の見直しを持つ。 共：(1) 互いを認め合い、自己やチームの動きを高め合う活動の工夫 ・話し合いの中で、お互いに良かった点や修正点を指摘し合わせて、チームや自己の新たな課題を見つけていくことができるようにさせる。	今後の学習の見直しをもち、自己やチームの課題を話し合い、次の学習の見直しを持つ。 共：(1) 互いを認め合い、自己やチームの動きを高め合う活動の工夫 ・話し合いの中で、お互いに良かった点や修正点を指摘し合わせて、チームや自己の新たな課題を見つけていくことができるようにさせる。	

評価規準

【知識・技能】 ①課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標設定、課題達成のための課題設定、課題解決のための練習方法などの選択と実践、ゲームなどを通して学習成果の確認、新たな目標設定といった過程があることを理解している。 ②防衛をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶことができる。 ③見方が作り出した空間にパスを送ることができる。 ④シュートやトライをしたり、パスを受けたりするために見方が作り出した空間に移動することができる。	【思考・判断・表現】 ①選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘することができる。 ②課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を見ることができる。	【主体的に学習に取り組む態度】 ①球技の学習に主体的に取り組むようとしている。 ②作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。
--	--	--

知識・技能	①	②	③	④
思・判・表	①	②	③	④
主	①	②	③	④

互いを認め合い、自己やチームの動きを高め合う活動や具体的支援の工夫
 高等学校第2学年 E 球技 ア ゴール型「ハンドボール」

1 単元目標

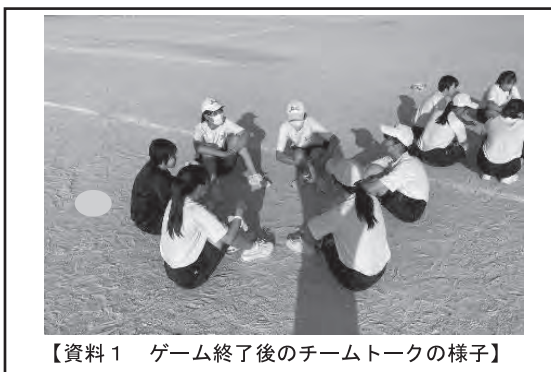
- 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。【知識及び技能】
- 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

(1) 互いを認め合い、自己やチームの動きを高め合う活動の工夫

本単元では、技能差や体力差を互いに認め合いながら、状況に応じたボール操作や空間を埋める動きについて、自己やチームの課題を明確にし、課題解決に向けた取り組みを行うことが出来るよう、ゲーム終了時またはゲーム間に話し合いの場（以下、「チームトーク」とする）を設定した。

具体的には、第1時～第4時まではゲーム終了後【資料1】に、第5時～第8時はゲーム間【資料2】と終了後にチームトークの時間を設定し、チームごとに自己やチームの課題を明確にして共有した。



【資料1 ゲーム終了後のチームトークの様子】



【資料2 ゲーム間のチームトークの様子】

(2) 互いを認め合い、自己やチームの動きを高め合う活動の工夫への具体的支援

認め合う雰囲気を醸成するために、「チームメイトが発言したことは肯定的な態度で聞くこと」をチームトークの決まり事とした。また、「互いの良かった点やチームとして上手くできたこと」「次のゲームに向けた自己やチームの改善点を発言すること」の2点をチームトークの視点として提示した。

さらに、初めて一緒に授業を実施する生徒が多くいたため、第1時～第4時ではチームトークをすすめる際に、各チームに教師がコーディネーターとして入り、話し合いを活性化できるようにした。コーディネーターとしての例として、ゲームでパス回しが上手くできなかったという課題が出たチームには、まず教師が良かった点として「よく声が出ていたこと」「練習中のパスは繋がっていたこと」を伝

えた。次に改善点として、「さらに空いているスペースに効率良くパスをするためには、どうすれば良いか」と聞き、「考える際に、『パスをする側』と『パスを受ける側』の視点で考えてみたらどうか」と具体的な視点を明示した。生徒は、ゲームの場面や練習の場面などを想起しながら、「パスをする人は、『ボールを持ち過ぎないようにする』『パスを受ける人は、『ボールをもらいやすい位置に移動してボールをもらおう』『ディフェンスの横をワンバウンドさせるパス等、いろいろなパスができるように練習する』」などと改善点を発言していた。そして、その改善点を生かしながらゲームや練習を行っていた【資料3】。

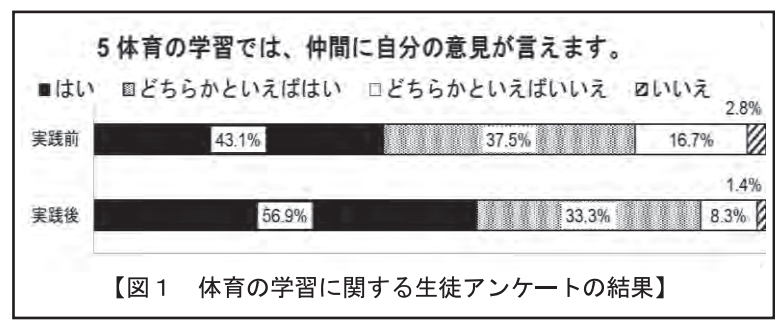


【資料3 改善点を生かしながらゲームを行う様子】

3 成果と課題

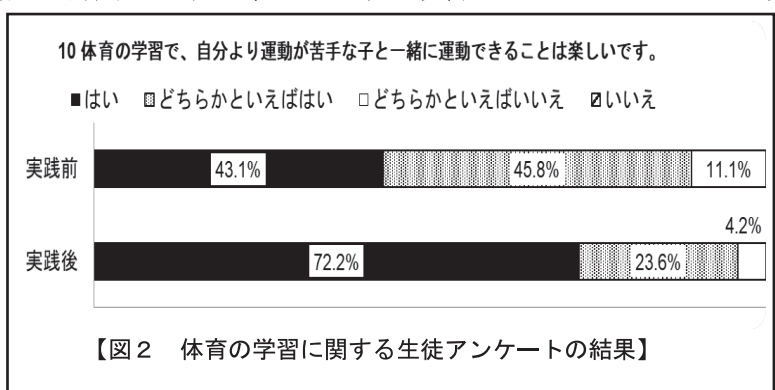
(1) 成果

○ 単元前後に行った「体育の学習に関する生徒アンケート」において、「体育の学習では仲間に自分の意見が言えます」の項目で、「はい」「どちらかといえばはい」と、肯定的な回答した生徒が増加した【図1】。これは、チームの課題解決をするために、「互いの良かった点やチームとして上手くできたこと」「次のゲームに向けた自己やチームの改善点を発言すること」の2点を視点として提示し、チームトークの場を設定できた結果だと考える。



【図1 体育の学習に関する生徒アンケートの結果】

○ 「体育の学習で、自分より運動が苦手な子と一緒に運動できることは楽しいです」の項目では、「はい」「どちらかといえばはい」と肯定的な回答した生徒が増加した【図2】。これは、認め合う雰囲気を醸成するために、「チームメイトが発言したことは肯定的な態度で聞くこと」をチームトークの決まり事としたことで、技能差や体力差を互いに認め合い、ゲームや練習を実施できた結果だと考える。毎時間終了後に生徒に記入させた感想にも、「チームのみんなと作戦を立てたり、反省をしたりする時間があつたおかげで、技術や身体能力の差を、どのように改善していけばよいのかを考えることができ、後半のゲームがもっといいものになって良かった」という記述が見られたことから、ゲーム終了後やゲーム間にチームトークを入れたことが有効であったと考えられる。



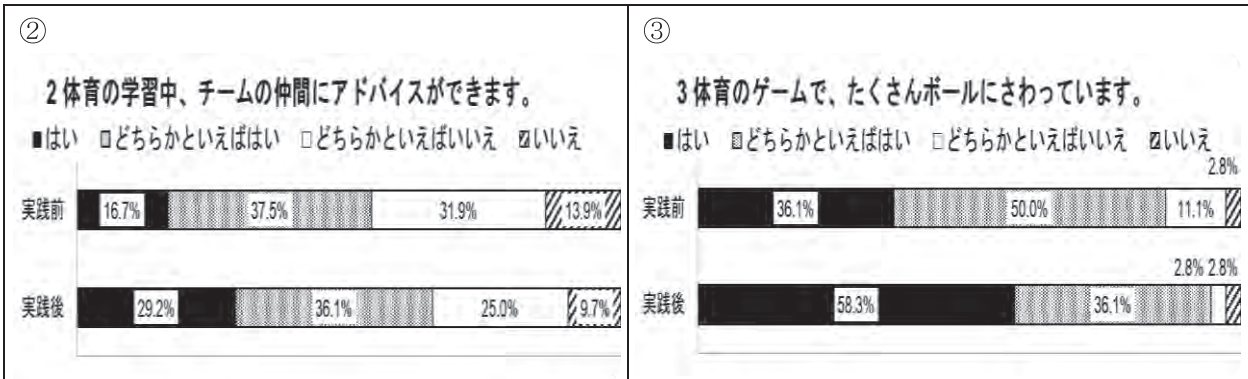
【図2 体育の学習に関する生徒アンケートの結果】

(2) 課題

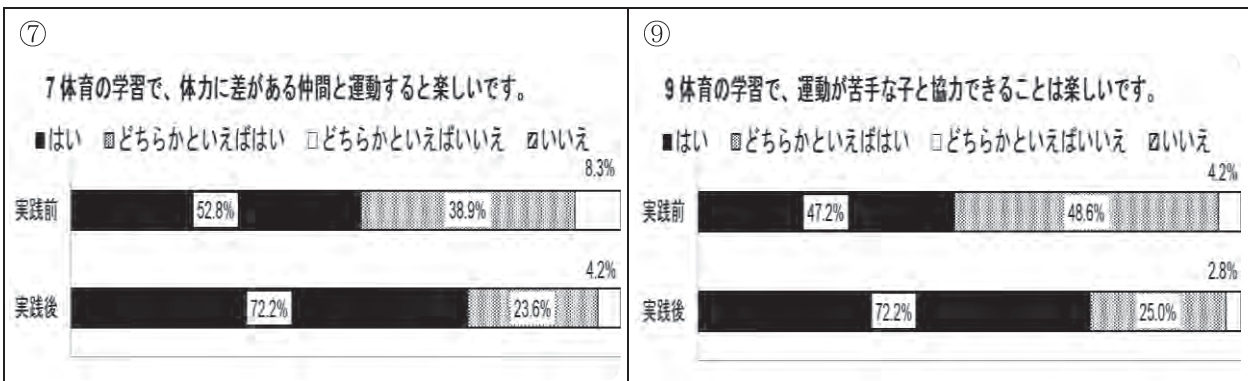
- 生徒が技能差や性差等を認め合いながら、技能の定着を図る上での手立てが必要だと感じた。

【児童生徒の変容】

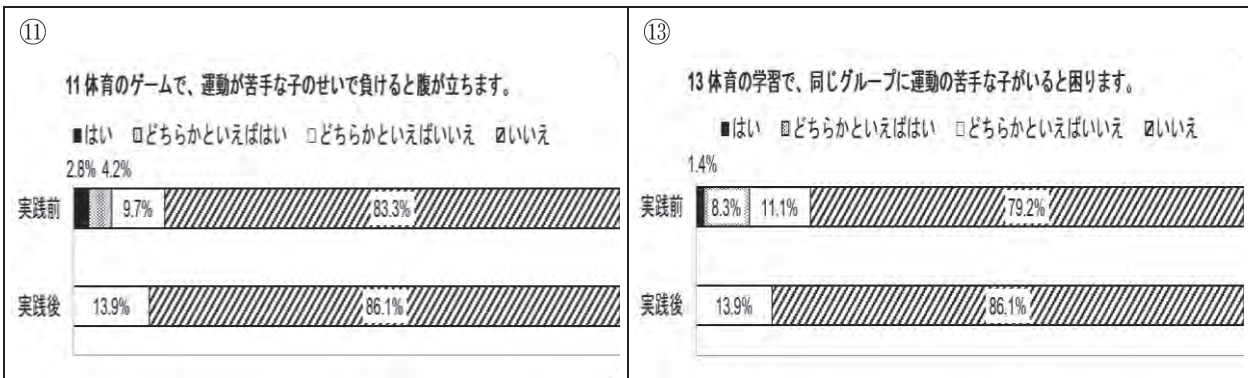
〔Ⅰ リーダーシップ〕



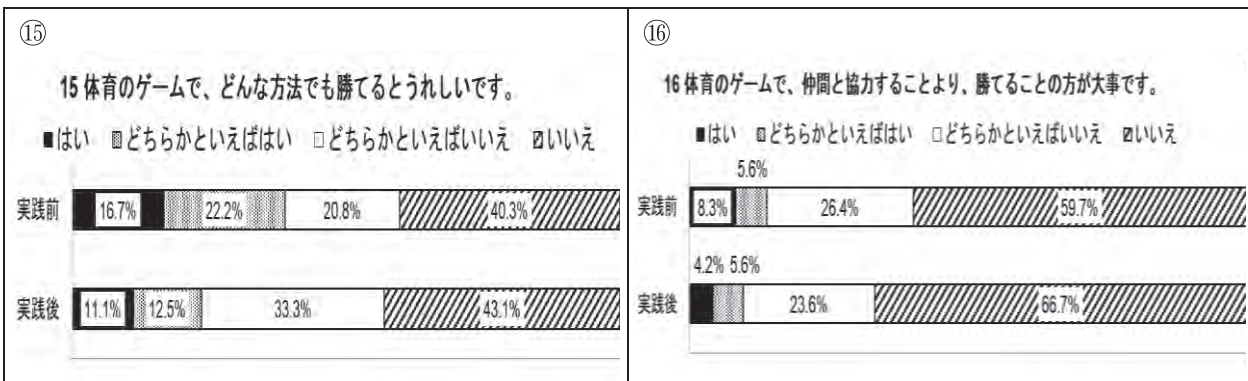
〔Ⅱ ちがいの受容〕



〔Ⅳ 失敗への排斥〕



〔Ⅴ 過度な勝利志向〕



【授業実践協力者の声】

お互いのプレイに対する声かけだけでなく、失敗に対しても励ましたりアドバイスしたりする声かけが増えました。また、勝敗に関係なく、チーム全員でゲームを楽しもうとする姿が見られました。

